

合 同

No.4 9 8

「A I 時代を導く共同の祈りを」

日本キリスト合同教会教師

品川 謙一



「一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は、『道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか』と語り合った」ルカによる福音書 24 章 30～32 節。

昨年 9 月に韓国・仁川で開催された第 4 回ローザンヌ世界宣教会議にオンラインで参加し、人口知能と超人間主義 (A I and Transhumanism) のグループに参加しました。世界中からオンラインで参加するメンバーと話すため、夜中や朝方にミーティングがあり、かなり大変でしたが、共通の関心や危機感をもつ人々とつながることができ、とても有意義な経験でした。

わたし自身、日々のエンジニアとしての業務の中で、Claude Code や Cursor といった A I エージェントの進化の速さを実感していますが、同時にそれらの限界もよく理解できるようになってきました。コーディング (プログラムを書く作業) のスピードは速くなり、多くの仕事を短時間で進められますが、適切にコンテキスト (文脈や背景) を分割して指示を与えないと、いい加減なコードを大量に書くので、チェックと修正に時間がかかってしまいます。そういう場合は、一回全部捨てて、それまでの試行錯誤で得られた知見を活かした設計で一から書かせた方が良い結果が得られます。A I は強力なツールですが、人間にとって価値のある結果が得られるように適切にコントロールする必要があります。

このような課題は、他の分野で A I を用いる場合でも同様ですから、例えば医療分野や軍事的な判断に A I を使う場合も適切なコンテキストを与えない状態で使えば、大量の間違いを短時間に起こしてしまいますし、敵対的な目的に使った場合、より簡単に

破滅的な結果をもたらすことができます。そして医療や軍事的なアクションの場合、それをやり直すことが困難なので、より深刻な結果を招くことになるでしょう。

主イエスがエマオ途上で弟子たちに現れたとき、弟子たちは、やり直すことができない深刻な結果 (主イエスが十字架刑で殺され墓に葬られたこと) にショックを受け、意気消沈していました。しかし主イエスは彼らに寄り添って歩き、その深刻な結果の中にこそ神のご計画があり、それをやり直すのではなく、十字架の死によるわたしたちの罪の贖いの向こう側に、復活の主イエスと共に生きる究極的な希望があることをはっきりと示されたのです。

ここには二つの大切なレッスンがあると思います。第一は、二人の弟子たちが話しているところに主イエスが合流され、食事の席の祈りの中で二人の目が開けたことです。キリスト者の交わり、対話と祈りの中でこそ、聖霊なる主が働かれて、わたしたちの歩みが正しい方向に導かれるということです。A I のような強力なツールを適切に使うためには、共同の祈りが必要で、Google で A I 開発に携わっている友人も社内で祈り会をしているということですし、わたしが参加しているクリスチャン I T ネットワーク CALM でも、エンジニアやクリエイターたちが 2 か月に一回集まって祈っています。

第二は、主イエスの十字架の死による罪の贖いと復活のメッセージは、A I 時代にも色あせることなく、むしろこのような時代だからこそビジネスやテクノロジーの最前線で必要とされているということです。5 月に開催された Future Now Tokyo で基調講演をしましたが、そこに集まっていたのは、E-Sports による中高生伝道や W e b 3 ゲームで日本の引きこもり層への伝道を志す海外の団体など、国内外で A I や W e b 3 などの技術を使った宣教に従事している方々でした。ツールが強力になればなるほど霊的な戦いも激しくなりますから、そのために祈る必要があるのです。

A I やテクノロジーのことはわからないと思う方々も、この時代に A I の開発・政策立案やテクノロジーの最前線に関わる人々のために祈ってください。そして、キリストの心をもってそこに携わる人々が増えるように、特に若者たちを励ましてほしいと思います。